



若竹だよい 278



【巻頭言】

卒園式

—此岸から彼岸に—

園長 野田大燈

3月22日、昨日の雨模様とは打って変わって小春日和の好日に若竹学園の卒園式が催されました。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われていますが、当日は春彼岸最中での行事で、卒園生は小学生中学生総勢13名でした。

その園生1人1人は香川県内の学校や県外の学校から入園していますので、卒園式には各人に1人1人の教員が卒業証書を携えて列席してくれています。

今年は特に高校進学率も高く、分校の先生方も努力が報われたとニコニコ顔でした。

卒園生の在園期間は個々の事情によって異なりますが、3年から6か月と幅があります。

特に今年の中3生が夏休み過ぎでの入園が多かったので、生活リズムも充分でないままに受験勉強を強いられて大変だったと思います。

私のモットーは「人は環境によって変わる」ですが、入園前までが諸事情で不自然な生活を余儀なくされていた子ども達は、大自然に抱かれた若竹学園の生活を通して徐々に失っていた「自然体」を取り戻していくのです。

社会で働くお父さん・お母さんも人間関係でや経済的なことで悩んだり苦しんだりします。決して思い通りにならないのがこの社会で「娑婆世界」と言ったりします。

自分の思い通りになって当然、と考えていると思い通りにならなくなると、相手を恨んだり自分

自身が苦しくなってきます。

その苦しみから逃れるためにはその環境から離れることだと思います。

児童相談所は児童本人と保護者から細かな事情を聞いて、児童に相応しい施設を選びます。

今まで家族と一緒に生活していたのが引き離されて1人で見ず知らずの施設に入所するので不安が一杯だったと思います。

施設には仲間が楽しく生活するために様々なルールを作っています。

それはルールで個人の自由を束縛するものではなく、皆が若竹学園と言う家族の中で安全安心して生活できるためです。

生活に慣れてくると緊張もほぐれ仲間の性格も分かり徐々に心の落ち着きが出て外界に目を向ける余裕が生まれてからが成長の第一歩となります。

成長のために必要なのは「素直な心」です。

素直な心を取り戻すために臨床心理士や生活を支援してくれる保母さんや指導員の先生方がいるのです。

日本には春夏秋冬と言う素晴らしい変化があります。山々に囲まれた若竹学園の春夏秋冬が子ども達の遊びにも変化をもたらします。

その変化に連れて子ども達は知らず知らずの内に成長していきます。

お彼岸の「彼岸」とは向こう側と言う意味ですが、向こう側に対するこちら側を「此岸」と言います。若竹学園と言う此岸から彼岸に向けて一歩を踏み出すのが卒園式でもあります。

学園で培った体力と気力・優しさを武器として大きく一歩を踏み出して欲しいと願っています

—了—

ホワイトデー

先月、2月14日はバレンタインデーでした。女性陣が一生懸命作ったチョコレートを美味しくいただいた一か月後の3月14日。今度はホワイトデー、男子が女子にお返しをする日です。今年は可愛いヒヨコをかたどったクッキーを作りました。慣れないながらも一生懸命作ったお菓子はいろいろな形があり、個性にあふれたおいしいそうなお菓子が出来上がりました。作ったほうももらったほうも満足そうな表情で、よいお返しになったのではと思います。



外遊び



ここ最近は寒暖の差が激しいですが、子どもたちはいつも関係なく元気に外で遊んでいます。特にドッジボールは人気があり、誰かが一声かけるとみんなが外に集まってわいわいと遊ぶ姿は今や学園の名物となっています。

また近頃は、カナヘビを初めとする様々な生き物が再び姿を現し始め、春の訪れを感じさせています。



魚釣り

学園の子どもたちは外遊びも大好きですが、変わらず



釣りも大好きです。土日には子どもからの強い希望があり、学園釣り師範の引率のもと、おさかな釣りに出かけることがあります。ギンポ、カサゴ、チヌなど、釣り師範直伝の技と穴場スポットで次々と魚を釣り上げる光景は見ているほうも楽しくなります。

ピアノ



外遊びばかりではありません。学園では音楽活動、特に

ピアノ演奏が盛んです。最近流行りの曲からスタジオジブリ、中島みゆきさんの「地上の星」など幅広いレパートリーで賑わっており、ピアノの前は行列です。

2,3日空けて出勤すれば聞いたことのない新しい曲が聞こえてくることもあり、次はどんな曲が聞こえてくるのだろう、と楽しみにしています。



卒園・卒業式



3 月 22 日、雨上がりの
良く晴れた日に、若竹
学園卒園・卒業式が執
り行われました。落ち
着いた雰囲気の中

で行われ、在園生を始めとする多くの人々に支えら
れた式は、新しい門出を迎える卒園生・卒業生た
ちに相応しいものになったのではないかと思います。
今年度は中 3 生の割合が多かったこともあり、
一度にいなくなる人数が多く、大人も子ども寂し
さを感じます。しかし、その先には新しい出会い
も待っています。思い出を胸にそれぞれが前に進
んでいければ幸いです。



卒園式の後はお待ちかねの立食パーティーでし
た。しみりとした雰囲気はなく、たくさん食べ
てたくさん笑った楽しい食事会になりました。特
に人気はエビフライとお寿司であつという間に無
くなっていました。中にはたこ焼きを 20 個、30
個と食べた猛者もいたそうですよ(笑)。



送辞



桜の蕾も膨らみはじめ、
春らしさを感じられるよう
になりました。卒園生のみ

なさん、卒業おめでとうございます。(中略) …こ
れから先、不安に感じたり、諦めそうになること
もあるかもしれません。でも負けないでください。

苦しくてもこれまでの自分と向き合い、頑張っ
たことを大切にしていれば、きっと乗り越えられ
るはずです。卒園生のみなさんは私たちにとって
大切な存在です。健康に気を付けて頑張っていっ
てください。これからの活躍を期待しています。
今まで本当にありがとうございました。

在校生代表、中 2 一同

答辞

厳しい冬の寒さに耐えた草花がつぼみを膨らませ、
春の訪れを告げてくれる良きこの日。私たちは若竹
学園を卒園します。(中略)…4 月、私たちはそれぞ
れ別々の場所で新しい生活を始めます。時に迷うこ
とがあつても、みなさんと一緒に学んだこと、先生方
と一緒に考えたことを思いだし、頑張りたいです。園
生のみなさん、そして担当の先生を始めとする職員
のみなさん、今日まで本当にありがとうございました。

卒園生代表、中 3 女子



運動会

3 月初旬の晴れた日、卒業を控えた中 3 生の声掛けにより、若竹大運動会が開催されました。二日間に渡る競技はケイドロ、ボール当て、大縄跳び、最後は園生全員の大リレー大会と、非常に白熱した内容となりました。終わった後はみんなで写真を撮って、互いの健闘を称え合いました。スポーツマンシップにのっとりたいい運動会になったと思います。中には余韻冷めやらず、そのまま外遊びに突入する元気な姿も見られました。

3 月行事

14 日 ホワイトデーお菓子作り

22 日 卒園式

在籍人数 平成 29 年 3 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	3	2	5
	中学生	7	5	12
	その他	0	0	0
	計	10	7	17
女 子	小学生	2	0	2
	中学生	3	0	3
	その他	0	0	0
	計	5	0	5
合計		15	7	22



～御寄附ありがとうございました～

大阪樟蔭女子大学 教授 石蔵 文信 様

発電機付き自転車・プラレール

岡野様	現金	5 千円
岡野様	現金	5 千円
高岸工務店様	現金	1 万円
たまや様	食品	沢山
東山様、溝内様	現金	5 千円
匿名	現金	10 万円

編集後記

あっというまに一年が過ぎ、時間の流れの早さに驚いています。また新しい一年を子どもたちと共有しながら頑張っていきたいと思います。

(セラピスト 平野佑馬)

第 277 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈